

【意見交換シート】 庁舎に必要な機能や役割・あったほうが良い機能や施設

①必要な機能や役割について

・防災機能・防災学習機能として何が必要か

		委員意見
1	防災機能	防災機能:災害時に機能が停止せず、迅速に行動が可能となるレジリエンスが必要であると思う。具体的には災害時に起こりうる電源喪失などを補える自家発電設備、断水時でも一時的に水を供給することが可能な受水槽・ポンプ、雨水などを貯留し再利用するための雨水貯留槽、地震時に機器の転倒による損傷を抑えるための対策(床免振等)が有効ではないかと考える。
2	防災機能	・自家発電装置・職員用の飲食物等
3	防災機能	・耐震性貯水槽は、常時新鮮な水が循環されており有事の際は、飲料水として使用ができるため必須であると思う。(飲料水の備蓄削減)
4	防災機能	・受水槽(飲料水にろ過できる)
5	防災機能	・災害燃料の備蓄(自家用給油取扱所・屋外タンク)
6	防災機能	・備蓄(訓練の日に消費)
7	防災機能	・防災意識の向上を図る掲示:ハザードマップを視覚化したものを大きめに掲示。その中に指定避難場所、一時避難場所も記されていると良い。
8	防災機能	・大型モニターの導入:上記と内容は同じで普段から防災情報を発信されていると良い。
9	防災機能	・にげどきマップや、病院、学校、公民館、公会堂などを大画面パネル(色付き・電子式)で示す。(子供から高齢者が簡単にわかる内容で)
10	防災機能	・安中市の防災に関する情報が集約された場所
11	防災機能	・マンホールトイレやかまどベンチも1つの防災学習教材としてはあってもいいと思うが、まずは新庁舎ではなく、市民が最初に避難する場所に設置するべきではないか
12	防災機能	・新庁舎に一時避難所としての機能を積極的にアピールする必要は無いと思う、現実問題として災害時に臨機応変な対応ができるように想定する必要は有ると考える。また、市職員に対する防災教育が必要であると感じる。
13	防災機能	・ヘリポートは必要だと思う。万が一大きな災害でどこかで土砂崩れがあったら、峠のある富岡・長野・榛名方面からの援助は不能(災害時の駐車スペースで着陸可能スペースが確保できるのなら別)。崩れることはないと思うが、ひさよし橋が通行不能の場合、高崎からも無理。事実、何年前の大雪で国道が通行不能になった。雪は除雪や晴れれば解消するが、災害は復旧が不明。大雪時よりもっと長引く。食料もなくなる。病人も運べない。陸がダメなら海がないので空しかない。自分や身内が瀕死状態になったらと考えてほしい。
14	防災機能	・会議のとおり、新庁舎にヘリポートは必要ないと思う。しかし、災害発生時には防災ヘリコプターが必要不可欠だから、ひさよし緑地公園の場外着陸場の地盤面・照明を整備してもらいたいと考える。(スポーツセンター付近に新設でも可)
15	防災機能	・一般的に求められる機能(耐震性や非常用電源など)以外には、特別な防災機能は何もないのではないかと
16	防災機能	・災害対策本部用の大会議室も、議場と併用でもよいのではないかと
17	防災機能	・市役所(新しい庁舎)が防災対策本部ということであれば、対策会議等で各長(消防・防災)が集まるだけなので、特に必要な施設や駐車場も必要ないと思う。
18	防災機能	・防災拠点は新庁舎。自衛隊やボランティア等を集結させ、振り分けるためのスペースは必要。

19	防災機能	・避難所開設前の自主避難者を受け入れるのであれば、トイレ・自販機が使える場所がよい。
20	防災学習	防災学習機能:防災学習教室のほかに、防災グッズや防災ガイドなどを販売する防災グッズショップ等が併設されれば、市民の防災教育や意識において効果があるのではないかと考える。
21	防災学習	・市民の防災意識が低いので、もっと意識を高められるよう、出前講座を可能にし、公民館や生涯学習センター等で各地区の方にその場所(地区の状況)に見合った避難の講座を開いたら良いと思う。
22	防災学習	・防災体験
23	防災学習	・防災学習としては、避難袋の内容レクチャーなどがあってもいい
24	防災学習	・各地域で避難訓練を実施することを義務づける。(〇〇日は訓練の日)
25	防災学習	・災害時に、一番必要なのは、まず一番最初に災害対応する各班単位ほど(100世帯~200世帯)の自主防災組織だと思う。各地区により暴風雨の時、地震の時、例えば臼井地区や坂本地区(崖崩れや土砂災害)と板鼻地区(洪水による水害)とでは、災害が異なるため対応が異なる。より一層の防災学習を実施し、自主防災組織づくりを進めていくことが肝心だと思う。その中で、新庁舎には市と自主防災組織との緊急連絡装置、災害時でも確実に直接連絡を取り合える方法ができればと思う。
26	防災学習	・ホームページ上での防災学習動画の公開、災害時に必要な平易な言葉でのメッセージ配信など:防災意識は世代間で違いがあると思うが、私自身に防災意識が無いことに今回の市民会議に参加して感じた。その大きな理由は災害が発生しにくい土地柄であることが一番だと思う。このような土地柄では防災機能・防災学習機能に対して予算を充てる事に違和感を持つ市民も多くいると思う。安全を確保するという事ができれば特段問題は無いはずなので、積極的に建物に費用を充てる必要はないと思う。安全確保のために市のホームページで対応を確認するということが、一番シンプルで分かりやすいことだと感じている。
27	防災学習	・映像教材制作(学校での防災教育):小学生の学習指導要領にも防災に関する事は含まれている。学校での防災教育は授業の中で行われていて、その後方支援をするような機能を考えるべきだと思う。安中市内で考える災害(地震・台風・噴火)に対して、どのような備えをしておくべきなのか。起きてしまった時には、どう行動をするのかを示す、映像教材をつくと良い。
28	防災学習	・ハード機能より、定期的にも人を小ばかにしたような「防災川柳」を考えて、それを庁舎入口などの目立つところに貼っておき、来庁した人が必ず目にして、くすっと笑ったり、ぐさつと胸に刺さったりしてもらった方がいいのではないかと
29	防災学習	・より身近に感じるような防災学習でないとな実際に避難する状況になった時に活用されないのではないかと
30	防災学習	・学習機能として、そのためのスペースをつくる必要もないのではないかと(数年たてば防災以外の用途で使うことになるだろう)
31	その他	・防災拠点センターの名称が、避難所と市民に誤認させる。実際に「松井田に住んでいたら、安中まで逃げていけない」と言う一般市民がいた。東日本大震災の際も、津波の際は避難所でないことを周知した上で防災センターの名称で建てた建物に、住民が避難してきてしまい、多くの方が犠牲となってしまった事例がある、との第一回会議時の副会長の意見を注視する必要があると思う。庁舎に防災対策本部ができるなら、防災拠点センターという名称を無くした方が良くと思う。
32	その他	・これまでの議論では、 ア 庁舎(災害対策本部機能)と防災機能(避難所等との併設)は一体としない、 イ 防災学習機能が単独の施設として「必置」とまでの議論はなかった、 そのため、無理に関連付ける必要はないのではないかと。
33	その他	だれがどのように防災学習をするのか。市の職員なのか、防災士なのか、市民なのか。

・市民活動・多世代交流機能として何が必要か

	委員意見
1	・市民交流コーナー:各地域の公民館活動や地域づくり活動の紹介コーナーの設置。常設的なパネルなどの展示ではなく週替わりなど交代で地域、団体別に担当してもらい各自で個性的な紹介コーナーを作ってもらおう。
2	・市民活動のPRブース:若い世代の取り組みを多世代に知ってもらえる。ただ、展示をするのではなく、ブースに人が立たないと交流は生まれない。 ※防災に関するスペースが半分(通年、固定)、市民活動に関するスペースが残り半分(交代制)。防災だけのスペースだと、リピートしない人が多いと思う。防災に関して常に目に入れる方法を考えながら運営することも、防災拠点としての役割だと思う。
3	・体験コーナー(デジタル関係、乳幼児の遊び場等)
4	・安中市民同士、他市や海外との交流拠点化:今はズーム、スカイプ、チームスなど世界共通のアプリでコミュニケーションをとる方法が多くあり、コロナ禍から日本でも一気に普及した。自身の会社でもWEB会議ツールを使用し海外と気軽に打ち合わせを行っている。とても便利で良い情報源にもなっているの、市役所のサポートのもと、WEB会議ツール活用を常時行っていない世代間の良い交流機能となるのではないか。 例:他市料理教室コミュニティと郷土料理の紹介、オンライン料理教室など 語学学習でネイティブとの交流 観光案内ボランティア同士の交流→地元民ならではのプラン開発 経済的な理由で学習塾へ通えない子供たちのオンライン塾
5	・リアルな他世代交流や市民活動については、サロンや公民館など地域に元々ある施設で取り組むべきだが、交流場所や市民活動についての情報を得る場所として、市役所を活用することはいいのではないか(情報提供スペースの設置)
6	・高校生が集まって、勉強できるスペースがあるとよいかと思います(高齢者ばかりが集まる市役所だと雰囲気暗いので、イベント時だけでなく普段から若い人を集めたいですね)
7	・市民交流スペースと市役所の会議室は併用できるような場所(執務スペースと会議室の間にセキュリティラインを設ける)にレイアウトできると施設の稼働率を高くできて、無駄がなくてよいのではないか
8	・Wi-Fi完備なフリースペース(市民が少し時間をつぶせるようなスペース)
9	・何も置かずに、ただ広いスペースを確保しておけばよいのではないか(常識的な数のベンチや椅子だけを置いておく)。来庁者が多くなる時期は、確保したスペースにパイプ椅子をおけばいいし、何か活動する際にも、広い場所があれば、あとは使う人が用途に応じて、どのようにでも使えばよいのではないか
10	・現市役所によく行くが、あまり待たされた記憶がない。しいて言うなら確定申告の時ぐらいか。広いスペースは不要で、憩いの場(休憩所)があれば十分。後は憩いの場の周辺に、市の案内板・お知らせ、展示物などを置くことで良いのではと思う。
11	・市民活動機能:執務空間とは別の区画として、「場所(環境)」の提供と「必要最低限の資機材・機器」提供まで。 ※ サークルやNPOなどの市民団体が「新庁舎を活動の場」を希望する定量的エビデンスはあるのか。
12	・安中市民や他市の市民がゆっくりできればよいのではないか。コロナ問題がある中、交流はないし、感染対策を第一に考えるべき。

13	・デジタルサイネージ(安中飲食店(契約制)、温泉、観光情報などボタンを押すと場所が分かる)
14	・市民活動を紹介+インタビューをする映像+web記事の作成:市職員が撮影、編集するのではなく、業務委託するのが良い。
15	・市内にある福祉作業所で製造しているお菓子やパンなどを販売するのはどうか。コロナウイルス感染予防のため様々なイベントができないので福祉作業所の皆様の活躍場所がないと耳にする。新庁舎が仕上がるころにはコロナウイルスも終息しているかもしれないが、福祉作業所の活動を市民に周知するのに良いと思う。
16	・現在、安中市では小児科の医療が脆弱で、当番医は西毛地区(高崎市・富岡市)に依存している状況が継続している。建設計画では保健センター移転も予定されているが、医療体制の整備が急務と考える。
17	・市役所はできるだけスマートに簡潔に必要なものだけを入れた方がわかりやすいし、公民館の活用実績も上がる
18	まずは現状存在している施設などを考慮したソフトウェア面での機能が必要であると思う。現状では市民活動や世代交流などのイベント等が少なく感じており、私が住む松井田町内においても年々市民や商工会によるイベントの開催数は少なくなり、世代交流の場は少なくなっている傾向にある。ハードウェアとなる施設として旧松井田町役場(松井田分署)や松井田町文化会館、安中市スポーツセンター、(現)安中市役所などが既に存在しており、これらの利用を考慮して新しい市役所に担わせる機能の議論が必要であるとする。
19	・多世代交流機能:そもそも市庁舎内に乳児や児童を持つ世代から高齢者までが世代間交流する機能が求められているのだろうか。 ※ 市庁舎以外の施設で検討されるべきではないか。市庁舎一極で目的が達成されるとは考えられない。
20	・安中市には、趣味サークル、市主催や社協主催の各事業、スマイルパークのオープンがあるので、多世代交流や出会いの場は必要ないと思う。
21	・多世代交流機能は、原市にオープンした「あんなかスマイルパーク」の利用状況に応じて考えたらどうか。市庁舎となると平日の利用かと思う。今現在の子育て世代は共働き世帯が多く、子どもが1歳を迎えるころには、保育園等に入園する家庭が多いと思う。多世代交流機能と言うと聞こえはいいが、実際はどうなのか疑問に思う。また、散歩のついでに庁舎に立ち寄れる方には便利かと思うが、車で20~30分かけてまで、利用するか。市民のための庁舎とするなら滞りなく事務処理ができるシンプルなものを希望する。
22	・新庁舎の機能を充実されるだけでは、全市民のためのものとは言えないと思う。一番必要だと感じているのは、交通網の整備だと思う。私の住む地域では、高齢化が進み、移動手段に困っている方が多くいる。免許返納をしてしまうと、移動手段は徒歩になってしまうが、地区の中には商店やスーパーは一軒もない。街場だけ、にぎわっていても何の意味もないと思う。タクシー券だけでは日常生活の移動はまかなえない。地域内を巡回するコミュニティーバスや支所や本庁に行くための路線バス等の交通網を整備して、「買い物難民」や移動に不便を感じる市民を減らして欲しい。高齢者の方は、徒歩で500m先に行くだけでも遠距離である！多世代交流を目指すなら、その前に広域交流(安中市全体)を目指して欲しい。
23	・市民懇談会や市民アンケート、議会要望書の内容が知りたい。本当に新しい役場が必要なのか。松井田と安中の旧役所ではだめか。

②あったほうが良い機能や施設について

・ほかに庁舎にどんな施設や機能・役割があったら市民に喜んでもらえるか

	委員意見
1	・入ってすぐの総合案内付近に様々な情報を流せる大きなパネル(もしくは小さい画面がいくつか)
2	・「市役所に行けば買える」ではなく、「ここに行けば買える」情報をもらえる場所に
3	・展示スペース(作品展・有名絵画、美術展示など)
4	・市民の手仕事コーナー:官公庁には各地域の観光物産展示コーナーがあるが、多くはガラスケースに入った名産品展示。また観光物産販売所などで売られているのは有名店や企業が製造しているものが主流になっている。ここでは市民の手仕事として作っている工芸品や手芸・雑貨などを展示する複数の棚などのコーナーを作り、市民に有料で貸し出し、来所者が見て気に入ったものがあれば購入や注文できるようにする。
5	・安中市アンテナショップ:県外・市外の方にも安中の商品を見れるようにし、庁舎利用者も買い物できる。
6	・チャレンジショップ:市内で創業する時にコストを抑えて、空き家を活用するのにも限界があるので是非入れて欲しい。いつまでもその循環が続くわけではないし、ほかに受け皿がないと創業者は増えない。庁舎でのチャレンジショップを皮切りに、市有施設だけでなく、企業と協同しながら増やして欲しい。廃校の活用、無人化した駅舎の活用など、みなかみ方面では活用が進んでいる。
7	・チャレンジショップに関しては、そこでの出店後は市内で本格的に開業する意思がある方などを募れば、市内も活性化するのでいい
8	・食堂、レストランなど軽食コーナー
9	・市民利用可の職員食堂、またはイトインのコンビニくらいでよい。
10	・売店、コンビニ
11	・屋外に常設のキッチンカースペースを設ければ、活性化すると思う。
12	・就労支援施設などの製造する菓子やパンなどを販売するカフェコーナー:内部にレストランや食堂は不要と思う。来所者に聞かれたら近隣の飲食店を案内すればよい。庁舎内はお茶とお菓子程度のカフェとする。
13	・ミニコンサートが開けるようなオープンスペースがあったら良いと思う。
14	・ミニシアター
15	・ドライブインシアターができるような設備:その都度、スクリーンを組むのではなく、庁舎の屋上から地上にスクリーンを下ろせる設備のイメージ。車で避難というケースも無くはないと思う。その防災訓練を行ったあとのレクレーションとして上映会があっても良いのでは。ただし、費用が嵩むのは良くないと思うので、庁舎そのものには無く、どこかに投影することも想定した大きめの壁があれば使える。
16	・診療所あるいは健康相談所
17	・ものづくりを利用した作業療法(上肢機能訓練や認知機能訓練)を目的としたリハビリテーション
18	・ATM
19	・ATMは現在地にある3行は外に欲しい。外でないと平日の昼間しか使えない。特に群銀は移転してから遠くなり、付近のATMはどこも行列が長い。県信用も、お年寄りや中小零細企業には必需。
20	・郵便局

21	・ハローワーク機能:あらゆる業種で二極化が進んでいるように感じるが、忙しい企業では仕事量の多さを懸念され、より人が集まりにくくなっているようにも思う。企業紹介などがもっと気軽に行うことができれば働き手不足解消に繋がるような気がする。そうした企業の一助となる機能、役割があると大変助かる。
22	・様々な種類のトイレ(子供から高齢者・障害者)
23	・多目的トイレの他に鍵のかかる授乳室など
24	・バスターミナル
25	・大規模な立体駐車場(Wi-Fi付き) 災害時の車中避難の拠点になるし、普段も使えるとよい。ただし、新庁舎につくる必要はなく、浸水しない広い場所があれば立体である必要もない。
26	・立体駐車場:車での避難時にも良い。市内に屋根付きの駐車場が少ない。イベントなどにも活用が効きそう。立体駐車場があれば、映画・ドラマなどの撮影誘致に使えると思う。また、車関係の出版社とコラボしてイベントなども行えると思う。
27	・高齢者向けのIT教育、付随する施設などはどうか。中・低年齢層にはスマートフォン等のIT機器が浸透し、電子書類提出や電子決済の流れは今後も加速することが予想されるが、私の身の回りも含め、高齢層はIT機器や電子情報サービスの利用を苦手としており、窓口での手続きが主となっている。IT教育施設を設けることにより、これらの高齢者にも新しいサービスや情報を行き渡らせることが出来るのではないか。
28	・スピード感を持って対応できるような動線の工夫:どの窓口へ行けばよいのか分からない、請求用紙への記入方法が分からない、またそもそも記入無しで行うことはできないのか(マイナンバーカード提示などで)、このように思う市民は多いと思う。生活スピードは依然と比べどの年代でも早くなっている。できる限り簡素化する工夫が市民にとって一番必要で、市民は喜ぶと思う。
29	・車を降りないで書類だけを手渡せるドライブスルー窓口(提出物は制限有り)
30	・半個室で良いので、高崎市役所のように相談室があればよい。そこで相続人がしなくてはならない手続きが一括でできると助かる。何をすればよいかわからないし、あっちこっち手続きごとに移動するのが大変。
31	・市の職員の働き方も考えた方がよい。
32	・見える省エネ、見せる省エネ、エコのまち安中市
33	・電気を消しても明るい市役所がよいと思う。
34	・うめ課の新設(和歌山県みなべ町にあり)
35	・ラウンジやカフェ、多目的スペース、アメニティスペースはいらない。公園広場もいらないので、減額したお金で、現庁舎の跡地に防災広場を作れないか。上記で省いた機能やチャレンジショップ、キッチンカースペース等は現庁舎の跡地にもっていく。平時はイメージのような広場、災害時は早めに避難所として開設。急病人がいたら、近くの新庁舎からドクターヘリで輸送できる。(災害が起きる前に避難をしてもらわないとだが)普段広場であれば人も集まり、西毛広幹道沿いなら、市民以外も訪れ、お金を落としてくれるかも。カフェも一部座敷にすれば、乳幼児連れも寄りやすい。避難所が開設してないときも、自主避難者を一時受け入れられる。トイレもある。広場のベンチ等は絶対トイレベンチに。市役所は防災機能を備えつつ節約して建て替え、市民が使う場所には命を守るためのお金を使えば、税金を払っている市民も納得するのではないか。
36	・建物はイメージより小さくし、必要最小限にして、保健センターも谷津庁舎も一緒にする。執務エリアとされているところだけにする。
37	・デパートではないので、「あったほうが良い」「喜んでもらえる」議論はあまり意味がない。コンパクトにして、必要不可欠な機能・「将来推計」をベースに「身の丈にあった」議論が大切だと思う。
38	・市役所は喜んで行くところではないので役所の機能のみでよいのではないか。税金で建てるのだからムダはいらないと思う。ふるさと学習館やスマイルパークみたいに人が集まらない様な施設はもういない。コロナで仕事がないのだから、税金が上がるようでは困る。